

1. 出稼ぎ労働者減少→送金を直撃

2013-14年度、アメリカからの送金は、1年前に比べ25%上昇し23億2千万ドルに達したが、従来の中近東の国々からの送金が全体的に低下したため、過去13年間で初めてバングラデシュは送金の低下を経験した。中央銀行のデータによると、わが国への送金は、1年前の144億6千万ドルから1.6%低下し142億3千万ドルとなった。何年もの間バングラデシュ人にとって最大の市場であったサウジアラビアからの送金は、1年前に比べ18.55%低下し、31億2千万ドルになった。送金為替受取はアラブ首長国連合から28億6千万ドルであり、これは1年前に比べると1億4400万ドルつまり5.1%落ち込んだ。バングラデシュ労働者のもうひとつの主要な出稼ぎ地であるクエートからの送金も8000万ドル低下した。アメリカを除き業績を上げている市場のうちで、マレーシアからの収入は6.74%上昇し、10億6千万ドルとなっている。ここ2年間アラビアやアラブ首長国連合では、新しくバングラデシュ労働者を受け入れていない。クエートはずいぶん前からバングラデシュからの労働者を雇用することをやめている。全体的に8つの中近東の国々からの送金は、2013-14年度には前年度の91億6千万から低下し84億ドルとなっている。しかし他の国々からの送金も総合してみると1年前の52億9千万ドルから上昇し58億2千万ドルとなった。

2. EPZからの輸出、13.8%上昇

国内の様々な障害にも拘らず、8つの輸出加工地帯(EPZ)からの輸出は、前年度に比べ13.81%上昇し55億2千万ドルとなった。バングラデシュ輸出加工当局は、「この成長はEPZの平和な生産環境と産業に優しい雰囲気であることによるものである」と語っている。チッタゴンEPZは22億7千万ドルの商品を輸出した。これは8つの地区のうちで最高であった。現在、8つのEPZでは、37カ国:428の企業が運営されており、さらにこれから135の企業が工場を建設することになっている。海外からの投資家たちは239の工場を所有、128の工場が国内企業に所属、そして61の工場が合弁会社である。

3. 非RMG部門、輸出業績不振

終了したばかりの昨年度では、ますますタカ高と輸出目的地の経済疲弊により、衣料をのぞいてほとんどの部門が貧弱な業績となった。分析家と部門内部関係者は、タカの高騰が非RMG製品の実績を、貧弱にした背後にある主な理由のひとつと見ている。非RMG部門は63億5千万であったのに、2013-14年度56億8千万ドルに減少した。非RMG輸出収入が目標より不足したのは、ジュート、ホームテキスタイル、テリートオル、建設材料、石油製品、冷凍魚、果物、セメント、印刷物、切花そして化粧品部門であった。これとは対照的にアパレル製品(織物、ニット共)は、13.85%ほど急増した。

バングラデシュ政策研究機構(PRI)の専務取締役アサン・H.マンズールは、「よく管理された衣料部門は、他の産業では難しいどんな困難でも乗り越えることができる。しかしタカの高騰は部門(非RMG)の競争力を侵食してしまった」と語っている。バングラデシュタカ(BDT)は、米ドルに対し昨年1年間で少なくとも5.0%高騰した。不安定な政治は、自転車のような急成長をしていた多くの輸出部門に問題を起こした。政策ダイアログセンター(CPD)の兼任局長コンドカール・ゴラム・モアッゼムは、「わが国の非RMG製品は近隣国にも輸出されているので、インド通過のデフレが一番の関心事項だ」と言った。

プバリ・ジュート・ミル・リミテッドの事務次長カイハン・Nラハマンは、「ジュート商品の輸出は昨年度大幅に落ち込んだ。これはほとんどの輸出先が政情緊張か政治問題に悩まされたからだ。シリアとエジプトへの輸出は“アラブの春”として知られる騒乱のために停止されたままだ。弱いインド通貨はインドの製品を安くし、バングラデシュ製品の注文を減少させた。アメリカのイラン制裁はバングラデシュのジュート製品の船積みにも、大きな影響を与えた」と語った。EPBによるとジュートとジュート製品の輸出は、昨年度よりも29%少なく、2013-14年度のために設定された目標額11億6千万ドルに対し8億2400万ドルの収入を得ただけだった。ホームテキスタイルの主要輸出業者ノマン・グループの会長MD.ヌルル・イスラムは、「欧州連合が一般特惠関税制度(GPS)をパキスタンに提供したことは、バングラデシュ製品の輸出に影響した」と語った。欧州連合はこの1月から2017年まで、パキスタンにGPSプラス便宜を保障している。GPSのステイタスによるとパキスタンは輸出約20%が免税、または70%が特別関税でヨーロッパ市場に侵入できることになる。

グローバル・ファブリックスの代表取締役M.アニスザマンは、「米ドルに対するタカの高騰のために、バングラデシュ製品は競争に負けてしまい、わが国への注文がインドに流れてしまった。最近上げられた労働賃金は、価格をさらに上げ、我々の経営を苦しめてしまった。テリートオルの生産のためには、ほとんど100%を原材料を輸入しているので、我々の競争力は安い労働賃金に頼っていたからである」と話す。

4. アパレルアクセサリ部門、輸出目標に達せず

わが国のアパレルアクセサリ及び梱包メーカーは、政情不安と世界的な景気後退のために、2013-14年度の輸出目標を達成することができなかった。バングラデシュ・衣料アクセサリ及び梱包メーカー及び輸出業者協会(BGAPMEA)会長ラフェズ・アラム・チョードリは、「我々は昨年度47億5千万に相当する製品を輸出したが、目標を立てていた50億ドルには届かなかった。この部門の成長率はここ数年10%を超えていた。今年度は15%の成長率を期待している」と語った。BGAPMEA筋によると、アパレルアクセサリと梱包メーカーは、2012-13年度41億ドル、2011-12年度35億ドル、2010-11年度27億5千万ドル、2009-10年度には18億ドルの輸出収入を得ている。

BGAPMEAの第2副会長及びその関税常務委員会の会長アブドゥール・カダール・カンは、「RMG(既製服)部門やその他の部門のためにも95%のアクセサリと梱包の需要を満たすことができる。輸出業者は、以前は全て外国からの輸入に頼っていたが、現在ではこれらのアクセサリを国内で簡単に手に入れることができる。しかしラナプラザの惨事後、バイヤーたちは以前より注文を減らしており、我々の業績に大きな影響を与えた。2013-14年度の上半期は国内の政情不安に直面し、運送費が想定外に高くなってしまったり、材料がチッタゴンから届くが極端に遅くなったりした。政治混乱の中チッタゴンからダッカまでのトラックは、片道70,000タカから80,000タカであったのが15,000タカから20,000タカに跳ね上がった。材料も通常なら1日2日で届くところが、4~5日も待たなくてはならなかった。その上、高い銀行の融資率と世界不況のため、この部門に悪影響を与えた」と語っている。

アパレルアクセサリには、ボタン、包装、絞め紐、刺繍、芯地、ラベル、芯、ビニール袋、縫い糸、チャック、プラスチックアイテム、背板、首版、ガムタック、バーコードなど35のアイテムが含まれている。わが国のアパレルアクセサリと梱包メーカーは、製品全体の15%を直接輸出している。後の85%は既製服に付けられたり、冷凍食品、医薬品などの梱包として輸出されている。現在の会計年度の目標額について、BGAPMEA会長は、「今年度の目標金額はまだ決められていない。イード・ウル・フイトールの休暇の後直ぐに決定したいと考えている」と応えた。

5. アコード、19の縫製工場を閉鎖

主にヨーロッパのブランドのプラットフォームである火災建物安全のためのアコードのエンジニアの勧告により、19の工場がこれまで閉鎖された。アコードは14の建物にある31の工場の閉鎖を勧めたが、政府が指定した審査団は、これらのうち7つの工場を一時的に運転することを許可、5つの工場にオーナーが即時改善すればフル運転を許可した。

工場企業検査局の検査長官スエド・アハメドは、「審査団はアコードのエンジニアからの勧告を受け工場を訪れ、もし大きな問題でなければ工場の運行を許可する」と話した。ザ・アコード国際事業の常任理事アラン・ロバートは、「工場オーナーが建物のイノベーションのために支払いができるよう基金を設立する計画はない。しかし、アコードは全てのブランドに工場オーナーが関連した改善が実行できるようにオーナーに協力し、十分な経済援助をするように求めている。これはザ・アコードの中でははっきりとした必要条件であり、これ自体法律的に拘束力のある協定である」と話している。アコードのプラットフォームは、これまで960を超える検査を行い、100を超える報告をして、それに関する改善アクションプランをオンラインで公表している。2月20日に検査を始めたアコードは、9月の終わりまでに640の工場にアクセスすることになっている。

一方26のアメリカをベースとする小売業者のプラットフォームであるアリアンスも、アコードと並行してそのメンバーが住入れをしている工場を中心に検査を始め、評価された600の工場のうち7つの工場を閉鎖するように勧告した。アリアンスは工場のオーナーが建物イノベーションのために支払いができるように1億ドルの基金も立ち上げている。そのメンバーは100万人以上の労働者とマネージャーたちに火災安全基本訓練を行い、工場が閉鎖された場合は4ヶ月間の経済補償の提供を始めた。

アメリカの連邦下院議員であり、アリアンスの独立議長であるエレン・タウシャーは、「アリアンスと我々のパートナーは、一緒に、ゆっくりではあるが確実に工場の労働者、既製服衣料産業、そしてバングラデシュの経済がひとつになるように、いつまでもポジティブなインパクトがある支援を続ける。もっとやることは残っているが、バングラデシュに透明で新しくそして長続きする仕事場を確実にするために、パートナーとして確実に計画を進め、協力する約束をした」と話す。また厳密な検査をすることに加え、アリアンスは労働者を守り、権限を与える計画を行うと特に強調している。これらは報復を恐れることなく、労働者が匿名で全ての労働関係問題や心配事を投稿ができアドバイスを受けることができるヘルプラインの委員会の構成も含めている。工場のオーナーとパートナーシップで、アリアンスは工場改善をするため解雇になった1,000人以上の労働者たちに賃金を支払った。

アリアンスの最高責任者メズバ・ロビンは、「バングラデシュでの衣料産業で、我々の目標に達成するためには、一筋縄では解決できない手ごわい問題を乗り越えていかなければならない。改善の厳しい仕事が始まり、今、最も大切なことは全ての投資家たちは、全ての人々のために安全な産業を確実にするように自分の役割を果たすことだ」と語っている。

6. アコード、800以上の工場を検査

ヨーロッパの有名ブランドで構成されたアコードは、今年の6月まで800以上の工場を検査し、9月までには彼らが既製の注文を取っている全ての1500の工場を詳細に検査したいと考えている。ザ・アリアンスの年間報告が7月23日に公表され、これまでの活動やこれからの目標が明らかになった。これに加え、1500の工場検査を完了するために資金が不足していることも明らかになった。だからアリアンスは寄付金を増やせばその次の年に寄付を少なくしてもいいので、2年目のためにもっと寄付金を増やすように呼びかけた。1000人を超える労働者の命を奪ったラナプラザ崩壊に目覚め、ヨーロッパの衣料ブランドは、バングラデシュでの5年計画の火災建物安全の協定を締結した。今年1500の工場検査にアクセスするためにアコードは、世界でも名のある4つの国際検査機関と契約した。これまで800以上の工場検査が終了している。アコードは改善アクションプラン(CAP)も実行し、工場が安全になるように改善するための基金のために必要な金額を出す義務もある。これまで100の改善アクションプラン(CAP)が用意されているが、このうち60だけが公表された。アコードは労働者やオーナー達にも6月からアコードの規定を実行させるため訓練を続けている。

7. ポリシャル県農村電化プロジェクトの進捗状況

政府は遂にポリシャル・ディビジョンの6つのディストリクトに、新しく10万の電気を接続するための、農村電化プロジェクトの高額のIDBローンを認可した。ジェッダに本部を持つ貸手委員会は、このプロジェクトのために4%の利率で7月3日に15億6千万タカの融資を承認した。このプロジェクトについては、2013年6月までに完成するために、2010年に融資の約束はされていた。高い利子のほかに、この融資は3年間の猶予期間を含め18年の返済となっており、「とても高い」融資だと言われている。経済関係局(ERD)の高官たちは、イスラム開発銀行からの融資に替わる「他に選択の余地がなく」、実際4年間かけIDBと書簡をやり取りして、このハード・ターム・クレジットを選択するしかなかったと考えている。中央銀行のハード・ターム・ローン委員会は、既にIDB融資を認めており、融資契約もまもなく行われることになっている。

バングラデシュ農村電化委員会(BREB)は、「農村電化拡大ポリシャル局プログラム」がポリシャルの6つのディストリクトに新しく10万の電気を接続することを請合った。しかしこのプロジェクトは資金手当のために遅れを取り、度々期限を延長しなければならなかった。プロジェクトは2010年CENECにより認可されたが、現在は再びこれからの予算の改定のために認可を待たなくてはならない状態である。予定されていたプロジェクト経費は原案の26億8千万タカから24%急上昇し31億1千万になった。そしてプロジェクト期間は2013年6月から2016年6月まで延期された。

プロジェクトは現在存在する300kmを再生し、それに沿って2,500kmの配線することに焦点が置かれている。それに加えポリシャルディビジョンの6つのディストリクトの約1千万の人々のために、このプロジェクトの下で33/11kvの新変電所が6つ設けられることになっている。BREB関係者たちは、「IDB融資の認可が遅れれば、合意された時間枠の中でこのプロジェクトを完成させることはできない。その上、プロジェクト経費は遅れのために上昇している。IDBが融資を承認すれば、プロジェクトが継続され2016年6月までに完成させることができるであろう」と期待している。

8. 最近の外資の進出状況

・アイシン精機、バイオ発電の実証実験に着手

アイシン精機は、ダッカ北部の郊外で鶏のフンを使ったバイオガス発電の実証実験を始めた。1年間、実証実験を続け、今後の導入拡大を検討する。

・シップHD、病院経営に進出

病院の新設や増改築などのコンサルティングを手掛けるシップヘルスケアホールディングスは、ダッカで病院経営に乗り出す。現地企業と組んで大規模病院を改築し、先端医療機器を導入する。

以上